

環境に配慮

PFU（石川県かほく市、輪島藤夫社長、076・283・1212）

は、スキヤナーや情報端末、コンピューターシステムの開発などを手がける。「Green IT Evo Intion」をスローガンに

電気で変わるモノづくり

〈第2部〉⑧

PFU

め、2009年1月に空調設備の更新に合わせてヒートポンプを導入した。管理部門、開発部門などが同居する本社ビルは2棟からなり、約1000人の社員が働く。既存の吸収冷温水発生機による空調設備は灯油を熱源にしており、二酸化炭素(CO₂)排出量と燃料費の増加が課題になっていた。このため同発生機をヒートポンプチャラーに替えることを決めた。



「ヘキサゴンモジュールチャラー」。本体が四角形の通常機種では、空気を吸い込む空間をつくるために、複数配列する場合には一定の間隔をあけなければならない。しかし、導入した六角形のヒートポンプチャラーでコンパクトに設置できた

燃料高騰リスクをヘッジ

掲げ、環境対応型製品やソリューションの提供、環境に配慮した工場や事務所づくりに取り組んでいる。

ただ、導入工事とはいえず、導入手間と本社の営業時間に本社ビルの空調を止めるわけにはいかない。「休日を利用した集中工事となったため管理には気を使った」。

この一環として本社ビルの環境負荷を減らすため、2009年1月に空調設備の更新に合わせてヒートポンプを導入した。管理部門、開発部門などが同居する本社ビルは2棟からなり、約1000人の社員が働く。既存の吸収冷温水発生機による空調設備は灯油を熱源にしており、二酸化炭素(CO₂)排出量と燃料費の増加が課題になっていた。このため同発生機をヒートポンプチャラーに替えることを決めた。

導入したのはダイキン製のヒートポンプチャラー。導入手間と本社の営業時間に本社ビルの空調を止めるわけにはいかない。「休日を利用した集中工事となったため管理には気を使った」。

ヒートポンプで課題解決

「ヘキサゴンモジュールチャラー」。本体が四角形の通常機種では、空気を吸い込む空間をつくるために、複数配列する場合には一定の間隔をあけなければならない。しかし、導入した六角形のヒートポンプチャラーでコンパクトに設置できた

く、自動制御システムで日常のメンテナンスも容易（北村幸志北陸電力石川支店営業部副課長）という利点もあった。

問題解決
09年1月にまず、5階建てのビルの屋上にチャラーを3台設置。続いて10年2月には7階建てビルの屋上に14台設置した。ヒートポンプへの切り替

記者の目

現場以外でもCO₂削減
PFUは07年度から3力年の取り組みを定めた「第5次環境行動計画」に掲げたすべての計画目標を達成。現在はグリーン調達や環

えと省エネルギー活動の徹底により、10年4-9月期のCO₂排出量は導入前の08年4-9月期に比べ37.6%減の619トンとなった。さらに「灯油を燃料としていた時は地下に保管していたタンクから灯油がしみ出す恐れや燃料費が高騰した場

合のリスクなど、さまざまな問題点があった。それをヒートポンプが解決してくれた」（安田浩PFU総務統括部長）と導入の効果に満足げた。同社ではヒートポンプのメリットを国内の工場や営業・サービス拠点、グループ企業にも積極的に発信していく考え。グループ全体で一層の省エネルギーとCO₂排出量削減を図る方針だ。